

帯広の子守歌

「赤い山青い山白い山」

帯広三条高校（合浦英則校長）で1月30日、帯広市で伝承されている子守歌「赤い山青い山白い山」の創作編曲発表会が開かれた。授業の一環で、1年生33人が6グループに分かれ、それぞれが編曲した同歌を歌唱。地域での知名度アップに向けたアイデアも発表した。

三条高1年生が発表会



グループごとに編曲した「赤い山青い山白い山」を歌う帯三条高1年生

雪イメージして鈴… 知名度向上案も

同歌は紅葉や緑、雪で包まれた日高山脈を歌い、北原白秋が作詞した童謡「赤い鳥小鳥」の元になったとされている。

同高では今年度、市開拓140年にちなみ、音楽の豊田端吉教諭が1年生を対象に同歌の授業を初めて実施。学校法人帯広養正園理事長の上野敏郎さんや作曲家の川崎智徳さん（清水小教諭が特別講師を務めるなど）学びを深めてきた。

地元の祭りで流し
幼児にも親しみを

この日は1年5、6組の生徒が5、6人のグループで発表。雪を意識した鈴の音を入れたり、後半にテンポを上げてギターなどの音を入れるなど編曲を工夫し、歌い上げた。知名度向上の方策として、「幼児や小学生に歌に親しんでもらう」「六花亭のテーマソングにしてもらう」「地元のお祭りなどで曲を流す」などの案が出た。

1年生の西岡晃太さんは「授業を通じて、この歌を知ることができてよかった」と話した。音楽を選択する他クラスの1年生も順次、編曲した楽曲を歌う。豊田教諭は「地域で歌い継ぐべき曲。来年度以降も1年生対象の授業を行う」とし、「とちかち文化まつりなどで生徒に歌ってもらうことも検討したい」とさらに発展させた内容をイメージしていた。（松村智裕）